

2号機復水器内貯留水水抜作業について

2017年3月30日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

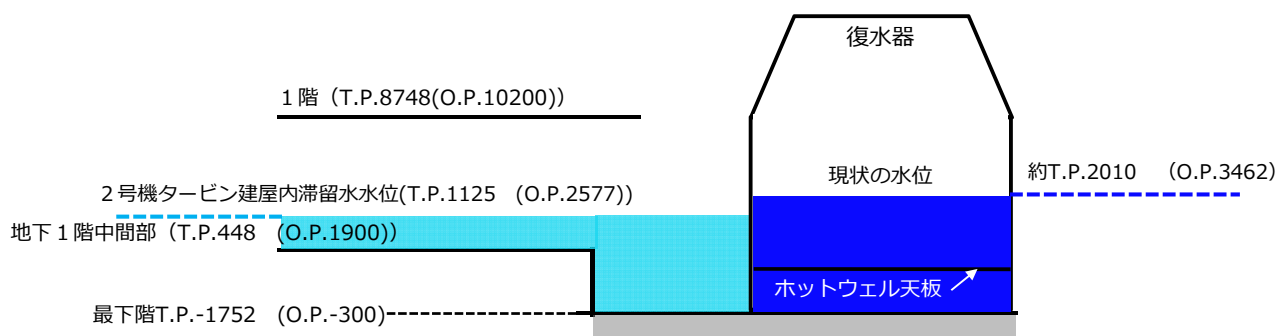
1. 目的

TEPCO

- 2号機復水器内には高線量の汚染水を貯留していることから、建屋内滞留水処理を進めていく上で、早期に復水器内貯留水濃度を低減し、建屋内滞留水の放射性物質量の低減を図る必要がある。
- このため計画的に、2号機復水器内貯留水の水抜作業を実施する。

2号機復水器内貯留水の実測結果 (2016.12.20～12.21採取)

	2号機
貯留量【m ³ 】	約 750 m ³
放射能濃度 (Cs137) 【Bq/L】	約 5.0 E+8

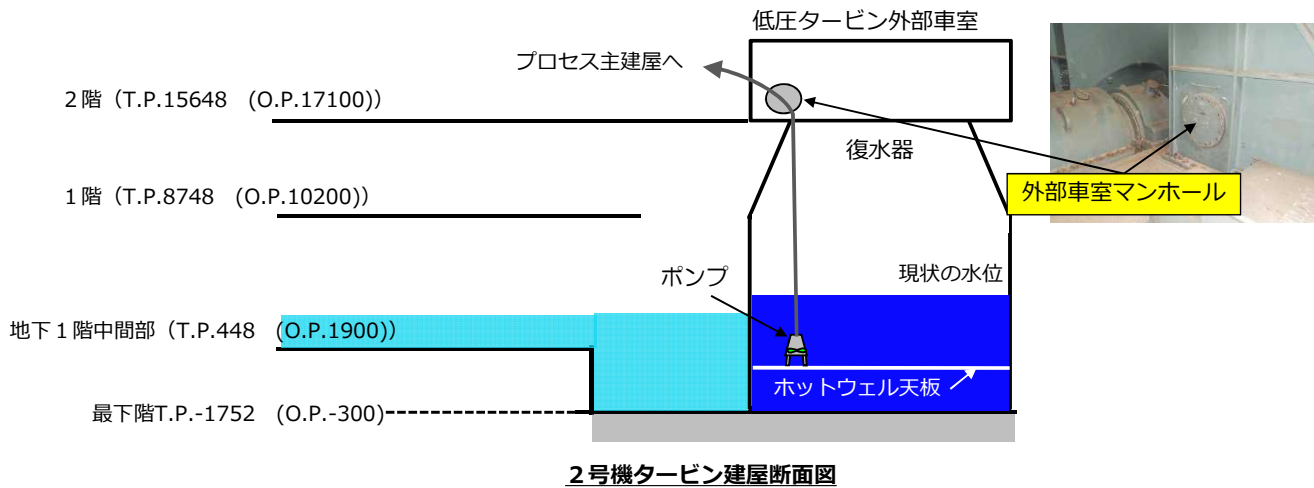


2号機 タービン建屋断面図

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

2. 水抜作業概要

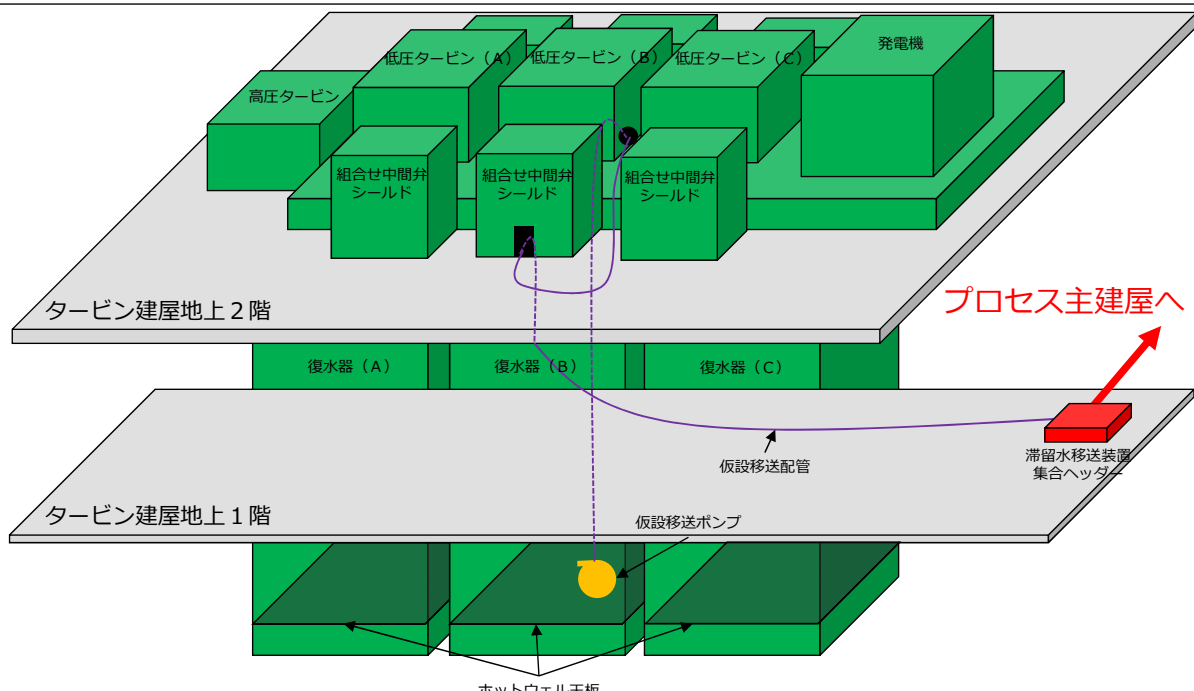
- 復水器内ホットウェル天板上部までの水抜(約420m³)作業を以下の手順にて実施。
 - 作業準備：低圧タービン外部車室マンホールから復水器内のホットウェル天板上部までのポンプ投入と排水ラインの敷設
 - 水抜作業：復水器内貯留水をプロセス主建屋へ排水
- 復水器内ホットウェル天板上部までの水抜を実施後、下部の水抜作業を実施するための現場調査を実施する。水抜方法の実現性確認を実施し、その結果を踏まえて水抜方法を決定する。



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

3. 移送ルート概要

- 復水器 (A/B/C) については連通していることから、復水器 (B) にポンプを設置し水抜きを実施する。
- 仮設移送ラインは、滞留水移送装置集合ヘッダーに接続し、直接プロセス主建屋へ移送する。



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

4. 漏えい対策及び監視について

- 復水器からプロセス主建屋へ移送する仮設配管（鋼管を除き）は二重管とし、配管の継手部には、受パンを設置する等、漏えいの発生防止対策を実施する。
- 移送前にろ過水による漏えい確認を実施する。
また移送時には監視員を配置し、異常が発生した際には移送作業を停止させる。

5. 作業スケジュール

- 作業スケジュールは以下の通り。
- ホットウェル天板下部の水抜方法及び作業時期については、水抜作業後に実施する調査結果を踏まえて決定する。

年	2017年				
	1月	2月	3月	4月	5月
現場調査					
ポンプ設置 移送ライン敷設					
水抜作業					

※3号機の復水器ホットウェル天板上部までの水抜きについても6月から実施するよう準備中。